

メキシコ湾でのオイル流出による沿岸汚染防止計画の工兵隊による許可の否認

メキシコ湾でのオイル流出が、ルイジアナ州の海岸を汚染するのを防止するために、沖合に岩石による人工の砂洲を構築する工事が始まったとの記事を紹介しましたが、その後、これに対する工兵隊の許可が否認されました。効果がなく、既存の自然のバリエーア일랜드に悪影響するとのこと。これに関して、州知事当局と地元の科学者の間で論争が行われています。ニューヨークタイムスの7月6日の記事を紹介します。

アドレスは、http://www.nytimes.com/2010/07/07/science/earth/07rocks.html?_r=2 です。

The New York Times (7/6)

Louisiana and Scientists Spar Over How to Stop Oil

ルイジアナ州と科学者はどのようにオイルを止めるかに関して論争する。

Barataria 湾(国で最も生産的な漁場の1つを誇る南東ルイジアナの広大なエスチュアリー)を襲っているオイルについて、ローカルの区の役員は脆弱な生態系を保存する計画を5月に立てた：それらは、閉鎖しそれからオイルを捕捉するために内湾とメキシコ湾の間のいくつかの主要な潮の出入り口を横切って岩の堤防を構築するであろう。

ルイジアナの [Bobby Jindal](#) 知事は計画を支援し、BP は、3000 万ドルかかると見積もられているプロジェクトの代金を払うことに合意した。6月初めまでに、約 100,000 トンの岩は沿岸への輸送のためにミシシッピ川の上のはしけの上に積まれはじめた。しかし、週末の間に、陸軍工兵隊は、環境問題(特に、岩の障壁が広範囲に及ぶ浸食と Barataria 湾の既存の堡礁島の崩壊を起こす可能性)を述べて、プロジェクトのための許可を否定した。この決定は、強く計画に反対した海岸の湿地についての独立的な専門家の意見を反映した。

今、岩は即時の使用がないままにミシシッピ川の上の 75 個のはしけに位置している。

湾の石油流出がその 3 ヶ月に入る時に、ルイジアナの役人は、オイルを彼らの沿岸に近づかせないでおくために砂のバームと岩の壁のような大規模な工学的プロジェクトにますます夢中になった。しかし、これらのプロジェクト(東ルイジアナのダイナミックで脆弱ない沿岸の迅速な再構築を必要とする)は、州とローカルの役人の希望を、湿地とエスチュアリーを保全する責任のある複雑な連邦の官僚組織とのものだけでなく、ローカルの海岸の科学者の経験豊かで声大きいコミュニティとの鋭い衝突に至らせた。

「彼らは、まさに、批判して、ゆったり座っている」と Deano Bonano(Jefferson 区(それ

は Barataria 湾と接している)の緊急準備部長)は言った。「この湾を保護することについてそれらはどこにもない？」

ニューオリンズの火曜日のスピーチにおいて、Jindal さんは言った：「誰も、水の中の岩石がオイルより危険であることを私達に納得させることができない。それは完全にこっけいである。それを信じる唯一の人々は、オイルを見たりオイルのにおいを感じずオイルに触れることができないワシントン D.C.の官僚である」。

科学者は、岩の計画が指導を誤ったことを強く主張する。

「これをしないための科学的裏付けが非常に強くあった」と Denise Reed (ニューオリンズの [Pontchartrain Institute for Environmental Sciences](#)(環境科学研究所の湿地の専門家であり部長)は言った。「これは本当に私達の障壁の海岸線(私達の最前線の防衛線)を荒廃させ得るであろう」。

数十年の間、独立的な専門家は、州と連邦の政府と手を取り合って、ルイジアナの沼沢地(それは、1930 年代以来浸食のために約 120 万エーカーが失われていて、毎年 25 平方マイルの速度で消滅し続けている)を救い復元するために働いた。

提案された岩の障壁への最も強い反対を提示したのは、**National Oceanic and Atmospheric Administration**(海洋大気庁)と [Environmental Protection Agency](#)(環境保護庁)のような連邦機関の彼らの科学の仲間とともにこれらの専門家であった。それらの批判の多くは、公式な決定が発表される前に工兵隊によって公開された関係書類に含められていた。

科学者は、岩によって出入り口を狭めることが、リージョンの頻繁な嵐の間に、既存の堡礁島の崩壊をもたらすであろうかを工兵隊に説明した。彼らは、これらの島(ハリケーンカトリナのような大嵐の影響を緩衝した)への損傷が、修復することが困難で、たぶん不可能なことを判明するであろうし、おそらく、岩の障壁によってオイルを止めることによって得られる沼沢地への利点でも上回るであろうということを警告した。

反対の声を張りあげて、これらの海岸の専門家は、国とローカルの役人が告発されたときに、彼らが事情に疎い学会または机上だけの官僚であるという告発で、現在苛立っている。

「それらを科学コミュニティの官僚と呼ぶことは、本当に侮辱的であり、公正でないと、思う。」と [Ioannis Y. Georgiu](#) 博士(ニューオリンズ大学の海洋工学の教授)は言った。「私達は悪魔にされている」。

まだ、流出の始めから、のろく混乱した対応について(また、ハリケーンカトリナへの連邦の対応の失敗について依然残っている憤慨に対して)批難されている連邦機関に味方しすることによって、これらの海岸の科学者は、オイルに対する戦いにおいて何にも停止しないこととしてかれら自身を描きたがっているリーダーのために、自身を容易な目標にしていた。これらの政治家にとって、より迅速な行動は重要である。

「あなたは戦争の最中に調査と連邦の許可のために何週間も待たない」と Jindal 氏(共和党員)は 7 月 2 日にスピーチで言った。「あなたは、あなたが、あなたの土地とあなたの人々を

保護するためにできる限り速く行う必要があることをする」。

ローカルの科学者は、応急処置の解決策が、それらが成功するであろうという確実な証拠がほとんどなしで、可能性のある恐ろしい副作用が最小化されて無視される状態で、一般大衆に与えられていると主張する。科学コミュニティとの約束の不足はまたフラストレーションを引き起こしていた。例えば、岩の障害の計画について、ローカルの専門家は、ローカルのエンジニアリング会社が許可の応募を書き、数千トンの岩石が、出入り口でに放出することを注文した後だけに、相談された。

「私達はここでそのような海岸の専門委員会を得て、彼らはのけ者にされている」と [Len Bahr](#) バール博士(Louisiana Office of Coastal Activities(海岸活動のルイジアナオフィス)の海岸の科学者で前の部長)は言った。「私にとって、それはまさに非良心的である」。

何人かの海岸の専門家は、科学コミュニティが流出について率先的であるというより対応的であり、沖でオイルを近づかせないでおくためにそれ自身の革新的なアイデアを提出するというよりも、解決策を相談されるまで待った(ローカルの役人が繰り返している批判)と、認める。

「私達は、損害を防止したい・私達は、それを掃除することはしたくない」と **Bonano** 氏(緊急準備の部長)は言った。「それは私達と彼らの大きな違いである」。

行ったり来たりやり方を告発されて、一方では連邦政府と海岸の科学コミュニティの間、他方では州とローカルの役人の間の緊張緩和展望は、よくてあいまいなままである。岩石の計画が陸軍工兵隊によって健全に拒否される状況でさえ、知事のオフィスを始めとしてルイジアナの役人は、岩の堤防を建てる計画が科学的に健全であると主張し続けて、それが運び出されるのを見るための彼らの戦いを続けることを誓約している。

「私達は無数の改訂をした」と **Garret Graves** (知事の **Office of Coastal Activities**(海岸活動事務所)の部長)は言った。「1ヶ月待ち拒絶されるためだけに、それらの懸念に対処するために、私達はすべてのこれらの輪を通して跳んだ」。

Jindal 氏の事務所は、また、知事が岩の障壁について圧力をかけ続けるであろうと言った。海岸の科学者は、彼らとしては、彼らが、湾の中にオイルの動きを止めるために他のオプションを調査し始める用意ができていると言う。

「私はただ、エネルギーが、まさにテーブルを強打することにはではなく、選択肢を捜すことになってくれたらと思う」と **Pontchartrain** 研究所の **Reed** 博士は言った。「通路を横切って岩を置くことは、オイルが沼地の中に入ることを妨げる唯一の方法ではない」。

A version of this article appeared in print on July 7, 2010, on page A1 of the New York edition.

http://www.nytimes.com/2010/07/07/science/earth/07rocks.html?_r=2